



一直線

5月号学力向上増刊号

狭山市立西中学校

学校教育目標

～自主的に考え、
正しく行動できる生徒～

○挨拶 ○清掃 ○素直
文責 校長 平沼 尚

★修学旅行（3年） 行ってきました！★



3年生は、11日(金)12日(土)13日(日)に2泊3日で京都・奈良方面へ修学旅行に行ってきました。班ごとに東京駅に集合し、新幹線で京都へ。1日目は、班ごとに東大寺や奈良公園、春日大社など奈良の見どころを巡り、2日目は京都市内をタクシーで班行動。3日目は、バスで嵐山に向かい、渡月橋や天龍寺とその周辺を散策しました。名所、史跡を巡る三日間、京都駅から新幹線で東京駅まで、そしてバスで西中まで戻りました。見学場所や集合場所、ホテルの中や電車の中でのマナーもとてもよく、見ていて心地よい思いがしました。特にホテルの皆さんからは生徒の礼節の素晴らしさにお礼のお手紙をいただきました。さすが“西中3年生”と感心する場面がたくさんあった3日間でした。

★さやまっ子・チャレンジスクール実施中

毎日曜日13:00~15:00

西中体育館ミーティングルーム



家庭学習が苦手な子供に学習習慣や学力をつける応援をしています。お子さんが参加を希望する場合は4月に配布した参加申込書に必要事項を記入して、教頭までご提出ください。※締め切りは5月17日でしたが大丈夫です ※狭山市教育委員会主催

埼玉県学力学習状況調査質問紙から見えてくること



1 「認められることが多いと学力は高くなる。」

○各学年を通じて、保護者や教員が「認めてくれた」「どちらかといえば、認めてくれた」という実感を持つ子供ほど、自分自身について「難しいことでも失敗をおそれずに挑戦している」と回答する傾向があります。つまり、①子供たちは自分の努力や良さを認められたり、ほめてもらえることによって、自己有用感や自信を高めて学習意欲も高まり学力が向上します。②子供たちに機を逸することなく自信を持たせる言葉をかけをしましょう。③ほめる、認める上で大切なのは、挑戦して失敗した時に、結果だけでなくその過程や子供の勇氣、思いを認めることも大切です。



2 「落ち着いた学校生活は学力を伸ばす。」

○「学級での生活が楽しかった」と回答する児童生徒は、学級の様子を落ち着いて学習していると考えている傾向があります。なお、児童生徒の約90%以上が学級や学校での生活を楽しくしていると考える傾向も各学年で共通しています。

つまり、①自分の居場所があり、安心して生活できる学級や学校は、子供たちの心を安定させ、じっくり落ち着いて学習する雰囲気醸成します。②基本的な生活習慣の定着は、学力向上にも効果があります。

※西中では、子供たちが落ち着いて学校生活をおくれるよう、「あいさつ」・「清掃」・

「素直」・「2分前行動」「無言清掃」等の取組を推進しています。

3 「好きこそものの上手なれ」が学力を伸ばす。

○勉強する理由が「勉強することが楽しい、好きだから」と回答する児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが高い傾向があります。つまり、①「何かが分かるようになった、何かができるようになった」と子供たちが実感することは、学習意欲の向上につながっていきます。

②子供たちが、わからなかったことがわかるようになったり、できなかったことができるようになった時、子供たちは勉強することが楽しい、好きだという気持ちを高め、学力レベルを高めていくことができます。

4 家庭は「規則的な生活習慣」の場でなければならない。

○テレビゲーム等について「家の人と約束を決めている」と回答した児童生徒は、長時間テレビゲーム等を行うことが少なく、また、家庭学習の時間を確保している傾向がみられます。なお、長時間テレビゲーム等をしている児童生徒は、教科に関する調査の学力レベルが低い傾向にありました。つまり、①子供たちが自分一人で家庭での学習習慣を作り上げるのは難しいことです。学校と家庭が連携し、子供たちが生活を見直すきっかけづくりをしていきましょう。②テレビゲーム等を行う時間について約束するときは、話し合って約束を決めることが大切です。また、約束する必要性についても確認することで、子供が主体的に約束を守ろうとする態度を育むことにつながります。

5 「自己肯定感」を持つことで学習意欲が高まります。



○各学年を通じて、「家の人と学校での出来事を話す」と回答する児童生徒は、「自分にはよいところがあると思う」と回答する傾向があります。なお、「自分にはよいところがあると思う」、「どちらかといえば、思う」と回答する児童生徒の割合は、学年が上がっていくと減少していく傾向がありました。つまり、①学校での出来事を家庭で話すことで、学習や学校生活を改めて振り返ることができます。②家庭や学校でほめられることが増えると、家庭で親に話すことも増えてきます。そしてそのことにより、子供たちの自己肯定感も育っていきます。③家庭でも学校、子供たちが自分のよさに気付くために「いいところ探し」ができるように働きかけていくことも有効です。よさに気づき、よさを伸ばし、よさを活かすことで自ずとウィークポイントも改善されていきます。

「凡事徹底のすすめ」



夢を実現させることは、そんなに簡単なことではありません。しかしながら、志を立て、当たり前のような小さな取組を徹底して行うこと「凡事徹底」で、夢は近づいてきます。

私の教え子のAくんは中学の時から英語の教師になるという目標を立て、それを実現するためには、まず「語彙力」が必要と考え、日々の目標として「家庭学習で英単語を毎日3つ覚える」ことを掲げて実行したそうです。「英単語を3つ覚える」こと自体は、誰にでもできることです。しかし、「毎日、英単語を3つ覚える」となると、できる人は大幅に減ってきます。1か月続けば良い方で、1週間も続かない人も多いのではないのでしょうか。この誰にでもできそうな当たり前の「英単語を3つ覚える」ということを徹底して毎日実行して、「夢の達成」を果たし、現在県内のある中学校で英語教師として活躍しています。当たり前のことを行うのに特別な才能は必要ありません。その当たり前のことを徹底して続けられるかどうかで差が生まれます。メジャーリーグのイチロー選手は「小さな積み重ねが、とんでもない所にたどり着く、唯一の近道」と語っています。

ぜひ、この「凡事徹底」という言葉の意味を理解し、夢の実現に向け、1、2年生は躍動し続けてほしいと思います。